

# 令和7年度 大和こども園 園評価

社会福祉法人 大和善隣館 教育・保育の方針及び目標  
 教育・保育の理念 **善隣のこころ**  
 “いつでも どこでも そしてだれにも われ等 善き隣人たらん”

教育・保育の方針 **三つのゼン(安全・自然・積善)**  
 ・すべての子どもが「安全」に過ごせる心配りを行います。  
 ・すべての子どもに「自然」の大切さを気づかせていきます。  
 ・すべての子どもに「積善」への努力を認めていきます。

**大和こども園 教育・保育目標**  
 自分で考え、判断し、表現する子  
 思いやりのある子  
 粘り強く取り組む子  
 ～愛されていると感じる空間に～

A:よくできる B:できる C:十分ではない D:改善を要する

項目	内 容	評価				取り組み状況及び課題
		A	B	C	D	
I 教育・保育理念や目標について	(1) 法人の教育・保育の理念や基本方針を理解している。		○			・法人および大和こども園の教育・保育の理念や基本方針や教育・保育目標については、園長の指導助言もあり、浸透しつつある。それらの理解は、日々の教育・保育の改善に繋がってきている。各行事等は子ども中心の教育・保育へと転換されてきている。これを日々の教育保育に当たり前のこととして根づいていくことをこれからも目指したい。 ・園児の呼び方については、中間評価の際の園の課題となり、日々指導助言を行った。しかし、親しみや慣習のため、呼び捨ても未だ見受けられるのが現状である。これからも、呼び名は、「一人一人を大切にしている気持ちの表れ」であることへの自覚を高め、保育者一人一人の人権意識の育成を図りたい。定期的な周知と対話の場の設定を行うことで、子ども一人一人を尊重するという風土の醸成を目指す。
	2) 今年度の大和こども園の教育・保育目標を理解している。		○			
	(3) すべての子どもたちが「愛されている」と感じることができるように、人権や個性を尊重しながら、丁寧で適切な教育・保育(名前の呼び方、言葉かけ等)を行っている。	○				
II 教育・保育の計画	(1) 教育・保育計画を立てる際に、「令和7年度大和こども園教育及び保育課程」を基に、子どもの姿や学年の育ち等を捉えながら、職員間で話し合っ		○			・保育士間のコミュニケーションの重要性については、全ての職員が理解している。話し合いの時間確保についても、隙間時間をうまく使ったり、話し合いの結果を可視化したり、ラインワークス等のICT活用を行ったりすることで、工夫している。 ・一方で、話し合いは十分ではないと感じている職員もいる。危機管理事案については、都度の早急な共有が必要だが、目指す教育・保育や児童像などについては、年度当初にしっかりと時間をとり話し合うことで、その後の実践をスムーズに運ぶようにしたい。 ・一人一人の保育者が、子どもの学びと育ちを支える保育者として、「共有の大切さ」「他の保育者の考えや思いを知ることの良さ」に目を向けていく。 ・教育・保育の成果は、「子どもの姿」にあると感じている職員が多い。これからも迅速にPDCAサイクルを回しながら「子どもにとってどうか」を中心とした話し合いを重ねていく。
	(2) 計画と実践を振り返り、そこでの反省を次の教育・保育計画の立案等に生かしている。		○			
	(3) 日々の子どもの姿や育ちを大切に、子どもが継続したい遊びや保育者の意図した遊び等をふまえて、週案や月案を立てている。	○				
	(4) 通信やドキュメンテーション等を活かし、子どもの姿から推測される一人一人の育ちや学びを職員間で共有し、教育・保育計画の立案に生かしている。		○			

A・・・アンケートの結果のA(よくできる)B(できる)の合計が、**90%以上**  
 B・・・アンケートの結果のA(よくできる)B(できる)の合計が、**70%以上90%未満**  
 C・・・アンケートの結果のA(よくできる)B(できる)の合計が、**40%以上70%未満**  
 D・・・アンケートの結果のA(よくできる)B(できる)の合計が、**40%未満**

III 子どもの発達支援	(1)遊びや生活のなかで、子ども一人一人の思いやペースを尊重したかわりを心がけている。	○				・手作り玩具を作ったり、子どもたちの遊びの様子から、環境を変化させたり、さらに行事等と絡めて遊びを継続発展させるなど、限られた保育環境の中で、より良い環境設定の工夫が見られる。
	(2)子どもが自ら遊びを選んだり、じっくりと満足して遊んだりできる環境(空間・時間)構成を行っている。		○			・古い玩具や壊れた玩具は、遊べないだけでなく、危機管理的にも良くないこともある。古かったり、壊れていたりするものについては、その場で修理や再購入等の希望を出せるようにシステムの構築を図る。
	(3)現在の子どもの遊びの姿をふまえて、さらに遊びを深めたり広げたりすることができるように環境の再構成をしている。		○			・数が足りないものについては、譲り合うことも大切だが、必要なものは購入を検討する。屋上の物置に、使っていない玩具もあるので、それを確認しつつ必要なものについては、購入希望を出していく。
	(4)様々な事情を抱えている子どもが「自分はここで愛されている(大事にされている)」という気持ちをもつことができるよう、子どもの気持ちを理解しようとしたり、丁寧に寄り添う対応や雰囲気心がけたりしている。	○				・満たされない環境だから生まれる工夫やアイデアもある。全てを満たしていくことだけが、教育・保育の充実につながるわけではないことを保育者も理解する。そして、子どもと共に、アイデアや知恵を出し合い、話し合うことで育つ力も大切にしたい。
III 子どもの発達支援	(5)個別の支援を要する子どもに対しては、保育者の理解のあり方や指導の姿勢が、他の園児にも大きく影響することを理解し、肯定的な支援を行っている。	○				
	(6)発達段階に応じて友だちや先生との関わりの中で伸びていけるように教育・保育を行っている。		○			
	(7)人との関わりやサークルタイム等を通して、子の発達段階に応じて気持ちや思いを自分の言葉で伝える活動を意図的に行っている。		○			
IV 保護者への支援	(1)子どもの発達や育ち・学びについて、連絡帳や対面での対応・懇談会などの話し合いの場を通して、保護者と共通の理解を得ることができるよう努めている。	○				・困り感を抱える児童、個別の支援を要する児童への心温かな関りや支援は日々行われている。
	(2)保護者が子育ての悩みや心配事を安心して話せるような関係作りを心がけている		○			・サークルタイムについても、先生方が意識的に取り組んでいる。これからも、一人一人の思いを大切にするために、また、多様な他者との関わりの中で子どもたちがその子なりに伸びていけるように、サークルタイムを活用していきたい。
	(3)保護者からの相談や意見等に誠実に対応し、教育・保育の充実を生かしている。	○				
	(4)園は、医療機関、児童相談所などの専門機関との連携を大切にし、不適切な療育や虐待を受けていると疑われる子どもの早期発見及び予防に努めている。	○				
	(5)園で起ったけがについてその日のうちに保護者に説明している。		○			

V 教育・保育を支える組織的な基盤づくり	(1)施設長は、リーダーシップを発揮し、職員が教育保育の内容と充実が図られるよう努めている。	○				<p>・職員が互いを尊重しながら日々の教育・保育活動を実践している。一人一人の職員が、より良い教育・保育の実践を目指すだけでなく、大和こども園が一人の人として成長できるそんな職場を目指していきたい。どの職員も全て大切な戦力であることを忘れず、これからも互いを尊重していきたい。</p> <p>・事故を限りなく0に近づけることは重要。一方で、ヒヤリハットのアンテナを高くしておくことは、事故を未然に防ぐことにつながる。些細なことでもヒヤリハット事案として報告していくことをこれからも続けたい。また、ヒヤリハット事案については、できるだけ早く共有し、職員の学びにつなげたい。回覧方法を見直し、できるだけ早く共有できるようにする。</p> <p>・個人情報の保護については、事務のICT化に伴い、さらなる課題となっていく。一人一人が、人権意識を高く持つことが出来るよう、「何のために…」を大切にしながら、管理職が指導助言を行う。</p>
	(2)職種(保育者・調理員・看護師・通訳・バス運転手等)や経験、能力、勤務時間等の多様な働き方に関わらず、自身が園運営の一人として主体的に業務に携わっている。		○			
	(3)職員間で子どもの姿・日々の教育や保育・それに伴う悩み等について気軽に語りあったり、相談したりすることができる。	○				
	(4)職員一人一人の持ち味や良い所に目を向け、認め合ったり、助け合ったりする関係作りを心がけている。	○				
	(5)保護者や子どもの個人情報漏洩や滅却がないよう適切に管理している。	○				
	(6)報告書や事故報告書を作成し、ヒヤリハット事案について職員間で共有し、その事案が繰り返すことがないよう努めている。	○				
	(7)子どもの健康管理(体調不良、アレルギー疾患等)について看護師と情報を共有し、適切な対応をしている。	○				
	(8)避難訓練・安全点検・不審者侵入防止等子どもの安全確保のため、職員としての緊急時の行動を身に付けるよう努めている。		○			
	(9)書類の提出期限や会議などの開始時刻等、職業人としてのマナーを遵守している。	○				
	(10)一人で抱え込まず、保育者同士が助け合いながら、よりよい教育・保育になるよう努めている。	○				
	(11)評価シートの記入および面談、研修等を通して、よりよい保育者となるよう努めている。	○				
	(12)評価結果等に基づき、園としての課題に向き合い、自分なりに改善に向かえるよう努めている。		○			